

帰国報告

～ベトナム社会主義共和国・ハノイ日本人学校～

前ハノイ日本人学校

現釧路市立光陽小学校 原 佳大

「ベトナム」という言葉からどのようなことをイメージするだろう。ベトナム戦争・仏領インドシナ・ポートピープルなど暗いイメージを連想する方が多いのではないだろうか。しかし、ドイモイ政策の採用やASEANへの加盟等により、急激な変容を遂げようとしているベトナムは活力にあふれ「豊かさ」を目指して動きだしている国である。

日本とハノイの距離は、成田や関空からの直行便が運行されるようになり、一気に縮まった。ハノイを訪れる観光客また、規模を拡張する企業や新しく進出する企業も増えてきた。ベトナムは今、アジアの国の中で最も注目される国になりつつあると聞いていいと考える。

ベトナム・ハノイでの勤務ということで、「どういう生活になるのだろう」と派遣先の通知を受け色々悩んだことを思い出す。しかし、実際に生活してみると、「ベトナムでよかった」「ハノイでよかった」とハノイの生活が思い起こされる。日本で思っていた以上に、この国が生活しやすいということも。

ハノイは人口約300万人、ベトナムの首都であり、政治・文化の中心地である。街中のバイクの多さやクラクションの音には圧倒させられるが、とても活気に満ちた街だ。街路樹の深い緑、点在する湖は心を和ませてくれる。そして、古い寺や廟、フランス風の洋館は、ベトナムの歴史を実感させてくれる。

また、ハノイは東南アジア諸国の中でもっとも安全な街といわれている。交通事故は少なくないが、凶悪な犯罪はほとんどない。それに、ベトナムの人にはこやかで優しく、我われを同胞



のように受け入れてくれる。それに日本と同じように米を主食とした箸の文化圏なので、とても親近感を覚えるのである。

1.ベトナムの概要

国または地域名	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam
面積	32万9241km ² 日本の約90%
人口	約8312万人(2005年)
首都	ハノイ Hanoi
位置	インドシナ半島東に位置し、南北に細長いS字形の国です。北は中国、西北にラオス、西南にカンボジアと国境を接しています。日本から直線距離で3,600km。時差は2時間。
元首	チャン・ドゥック・ルオン Tran Duc Luong
首相	ファン・ヴァン・カイ Phan Van Khai
政治機構	政治体制...社会主義共和制 政党... ベトナム共産党 立法...国会(一院制) 司法.....最高人民裁判所、地方人民裁判所、軍事・特別裁判所
民族構成	ベト(キン)族約90%。タイ族、中国漢族、カンボジア族他計54族。
宗教	仏教約80%、キリスト教9%、イスラム教、カオダイ教、ホアハオ教、ヒンドゥー教など。
言語	ベトナム語。文字はクオック・グー(Quoc Ngu)を使用する。外国人や旅行者を相手にする所では英語がよく通じる。店によ

	ては日本語が通じることもある。ほかに年配者にはフランス語やロシア語が通じることもある。
教育制度	初等教育：小学校5年（就学率95%） 中学校4年（同40%） 高等教育：専門学校（高等教育就学率3.1%）、単科・総合大学（100大学、うちハノイ43）
兵役制	2年間。（18歳～27歳）
識字率	94%
通貨	ベトナムドン。10,000ドンが大体75円の価値。<1ドル=117円=約15,900ドン（平成18年9月）>

(1) 気 候

・ベトナム南部は熱帯モンスーン地帯で、乾季と雨季があり、年間を通して暑い。ベトナム北部は亜熱帯で雨の多い時期と少ない時期がある。夏と冬の気温差が大きく、夏は高温多湿で蒸し暑い。ベトナム北部に位置するハノイは四季があると言われているが、ハノイは不快指数が100近くになることも多い。年間を通してみると以下ようになる。

12月～3月（冬）は肌寒く、小雨が降ったりして曇りの日が多く、日本の初冬という感じ。4月（春）は晴れたり曇ったりだが、晴れると暑い。また天候が不安定で、暑かったり寒かったりする。5月～10月（夏）は一気に気温が上がり、蒸し暑い。5月頃になると火炎樹などが一斉に花を開き、太陽が出ると強烈な日差しで朝から35 以上になることもあり高湿度である。

10月後半はさすがしく、ハノイで一番過ごしやすい季節とも言えるが、気温はまだまだ高い。

(2)特 産 品

主な輸出品目は原油、衣料品、農水産物。特にコメについては、タイに次ぐ世界第2位の輸出国。近年生産量・輸出量ともに増加しているのが**コーヒー**で、現在では**ブラジル**に次ぎ、世界第2の生産量に達している。大部分が、インスタントコーヒー、缶やペットボトル入りの**清涼飲料**、製菓用杯で使われる安価な**ロブスタ種**（カネフォラ種）であるが、レギュラーコーヒーに使われる高級品の**アラビカ種**の栽培も始まっている。

(3) ベトナムの教育制度

教育の中央行政機関は教育訓練省（Ministry of Education and Training）である。教育行政は国・省・市町村の各レベルで担当しており、国は教育政策の立案や各教育レベルでの課程基準を設定し、省・市町村はその実施や監督の責任を負う。初等・中等学校は市町村が、技術・職業教育学校は分野により各関係行政機関が設置・管轄する。大学・カレッジはほとんどが教育訓練省の設置・管轄となるが、医科薬科大学は厚生省、美術大学や美術学院は文化情報省、地方大学など、一部で他官庁や省人民委員会が設置・管轄するものがある。

全国的に学校教育制度が一本化されたのは1989年になってからで、1975年の統一前まで南北の教育制度は異なっており、統一後6年たった1981年に旧南ベトナムの制度を採用することが決まった。それと同時に教育訓練省がカリキュラムを変更し、初等教育の5年間を義務教育とすることが決まったのは1991年になってからで、現在、初等教育の5年間が義務教育で、4年の前期中等教育、さらに3年の後期中等教育、大学・カレッジ・技術職業訓練学校などの高等教育が設置されている。

(4)ベトナムの教育の実情

ベトナムの学校は基本的に2部制ないしは3部制が普通で、午前もしくは午後だけ学校に通うというケースが多い。ベトナムでは5年間の小学校だけが義務教育とされていて、普通は無償である。

ベトナムでは多くの教師が女性である。小学校までは特に女性の先生が圧倒的に多い。「小さい子どもは女性が世話をする」という役割観が存在する。英語教育は力を入れているようで、先生はときおりベトナム語も口にするが、基本的に英語で授業を進めていく。生徒達も、全員ではないが積極的に手を挙げる子が多く、積極的に外国語を習得していく姿勢は、日本における外国語教育との違いを感じる。

ベトナムの学校にはいじめなどの問題は基本的に

ないと言われるが「小さい子どもに対しては先生は厳しく躾もし、年齢がまずに連れて先生と生徒は友だちのようになっていく」と話も聞いたことがある。社会全体で子どもを躾け大切に育てていくという発想が、ベトナムではまだ見られると思われる。またティーチャーズデイという日もあり、その日は先生方に感謝する日として花束を持つ学生が多い。

ハノイなど都市では、学校教育はそれなりに充実しているが、山間部などの地方では先生の数が決定的に足りないという問題もある。またまったく質の違う問題として、公務員の賃金が少ないことから、教師への賄賂の問題、あるいは違う仕事で副収入を得ざるを得ないという問題などもある。

(5)ベトナム戦争

ベトナムを語るうえで避けて通れないのが、ベトナム戦争（1960年 - 1975年）である。この戦争は、インドシナ戦争後に、ベトナムの南北統一をめぐる戦われた宣戦布告なき戦争であるためベトナム紛争とも呼ばれる。第二次インドシナ戦争ともいう。共産主義勢力の拡大を防ぐため、北ベトナムと対峙する南ベトナムを支援するアメリカ合衆国が中心となり大規模な軍事介入を行ったが、目的を達せず撤退した。形式的には北ベトナムと南ベトナムの戦争であったが、実質的に共産主義勢力（ソビエト連邦、中華人民共和国）と資本主義勢力（アメリカ）が背後にあつての戦いであった。その為、「代理戦争」と呼ばれた。以後、戦争は拡大し、米国はのべ260万人の兵士を派遣、韓国、タイ、オーストラリアからも兵士が送られ、米軍は5万8千人が戦死、30万人以上が負傷した。ベトナムでは335万人が戦死、サイゴン政府軍22万人、民族解放軍約110万人、民間人約200万人が死亡、その半数は子どもたちだったといわれている。この戦いによる世代を超える傷跡は、私たちに多くの教訓を語りかけている。

2. ハノイ日本人学校

(1)学校経営方針



基本計画

基礎基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実を図るとともに、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成に重点を置き、創意工夫を生かした特色ある教育を推進する。



ハノイ日本人学校「校訓」

やさしく かしこく たくましく

学校教育目標

- (1) 自ら進んで学習するかしこい子
- (2) 思いやりのあるやさしい子
- (3) 忍耐強く最後までやりぬく健康でたくましい子
- (4) 世界の人々と共生できる国際感覚豊かな子

具体的目標

- (1) 目標を持って自ら進んで学習すると共に、自分で考え、自分で判断して行動する。
- (2) お互いを思いやり、認め合いながら協力して生活できる。
- (3) 健康安全に留意し、進んで身体を鍛え、忍耐強く最後までやりぬく。
- (4) コミュニケーション能力を高めると共に、ベトナム理解を通して自国文化と異文化理解を深める。

(2)沿革

本校は平成8年4月、海外における92番目の日本人学校としてベトナムの首都ハノイに開校した。開校時は13名の児童・生徒でスタートし、12周年を迎えた現在では全校児童・生徒200名を数えるに至っている。（平成19年6月25日現在）平成18年8月末、念願であった新校舎がハノイ市郊外のMY DINH（ミディン）地区に完成し、2学期より移転した。このミディン地区は、国会議事堂、国立競技場や水泳施設などが建つ、副都心として今後大きく発展する地域である。

(3)教育活動の様子

平成18年度は職員数24名で学校の運営を行っていたが、そこには英語講師、日本語指導講師、英語コーディネーター、事務補、用務員としてのベト

ナム人スタッフなどで構成されている。ハノイ日本人学校では、小学校においても一部、教科担任制を導入しており、特別支援教育を行う年もあった。

日本で行われる指導要領に準じた教育はもちろんであるが、特色ある教育活動としては、

英語授業の充実 異文化理解と副読本の活用

総合学習などによるコミュニケーション能力の育成

ベトナムの現地校との交流会 ハノイタイムで

の各種検定への取り組み テト集会や誕生日集会等の行事などがある。

小学校英語

学習活動の特色として、平成18年度より小学校英語を創設した。これまで、小・中学部において「英会話」授業を実施し、実践を積み重ねてきた。平成20年度の小学校英語の導入を前に、ハノイ日本人学校では、小学校英語を創設する運びとなった。

外国人講師3名、日本人講師2名による授業

英語担当教師による企画・運営・授業

小学部英語 毎週2時間、中学校英会話 毎週1

時間 英語検定(2級まで)の導入。



授業の様子



昨年度末に完成した英語のテキスト

ベトナム語

国際理解の視点から、「ベトナム語」の授業も行っている。小学1、2年生は年間を通して、小学3、4年生は1学期だけ行っている。講師は事務補のベトナム人スタッフ2人が担当している。



水泳学習

ハノイの気候を生かして、毎年5月から9月まで水泳授業を実施している。7月には水泳大会も開催しており、いつもはサービスアパートのプールを借りて実施していた。現在は学校の新しいプールで行っている。泳げない子が泳げるようになっていく姿から水泳学習の大切さなどもうかがえる。



総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」には、ここベトナムでしか見聞きできない題材を選び、現地の人々との交流や体験することを目的に取り組んでいる。小学部は各学年で様々なテーマにわたり活動している。中学部も個人研究を中心に、調べた成果を総合学習研究発表会で発表している。毎年2月に実施している。



(漆絵体験)



(オリジナルのネムづくり)

さまざまな「交流活動」～現地の学校と

ベトナムを理解する活動として、「ベトナムの小学校との交流会」「貿易大学の日本語学科の学生との交流会」等を実施している。以前は学年が決められていたが、クラス単位での交流が盛んになってきた。また、イベント的な交流でなく、さらにお互いの文化を学習しあうという試みも開始されてきている。



行事

ハノイ日本人学校では様々な行事が行われている。主な行事は下記の通りである。

1学期～新入生を迎える会、水泳大会、大縄大会

2学期～スクールフェスティバル、運動会、日本人会祭り、ティーチャーズデイ、大集会、大縄大会

3学期～餅つき大会、テト集会、総合学習発表会、卒送会
また、毎月、各委員会による集会、読み聞かせ、代表委員会、あいさつ運動、誕生日集会、必要に応じて転入生を迎える会、転出生を送る会を行っていた。時には訪問者に応じて交流会を行った。



スクールフェスティバル



秋季大運動会

(4)教育実践

・現地理解教育

総合学習などを中心としながら様々なテーマで学習に取り組ませた。「お父さんの仕事を知らう」では保護者の協力なども得て「ICA、レッドリバー橋建設、ベトナム獣医学研究所などの仕事現場に行き、体験学習などを行った。自分の父親の仕事を五感で理解すること、また海外での派遣者のプロジェクトなどを感じ取るよい学習となった。勿論、現地ベトナムの小学校との交流も行った。交流学習ではお互いの



獣医学研究所で寄生虫を観察。



建設中のレッドリバー

文化紹介、歌や踊りなどの出し物、クイズ、ゲームなどで構成されている。言葉の問題など、まだまだ課題が残るが、今後も内容を工夫しながら展開されていくと思う。釧路市立城山小との交流では、メー

ルや自己紹介カード、紹介DVDなどのやりとりでお互いの町の紹介を行った。研修テーマの「コミュニケーション能力を育てる」を重点に置きながら取り組んだ。



タイン・コンA小との交流学习

・音楽科

担任と同時に音楽専科も担当したが、中学生の指導は教師として学びの場にもなった。教材の工夫として、スクールフェスティバルに向けた中学器楽の取り組みの一環として、民族音楽の体験（雰囲気）も考慮し、曲を作って器楽曲とした。1年目はアイヌの音楽をモチーフとした「イソノカムイ」、2年目は和の音楽と生徒達の節作りをもとにした「ニギハヤヒ」、3年目はベトナムのホーチミン賛歌をモチーフとした「ベトナムシンフォニー」をスクールフェスティバルで発表できるよう練習に取り組んだ。

(5)イベント

・APEC会議

2006年11月20日 ハノイ日本人学校で

11月18日及び19日、APEC首脳会議がベトナム・ハノイで開催された。日本から安倍総理が出席したほか、ブッシュ米国大統領、胡錦濤・中国国家主席、プーチン・ロシア大統領を始めAPEC各エコノミー首脳が参加した。それに伴い、安倍首相夫人が来校した。児童生徒と交流会を行う。

・アジア欧州会合第5回首脳会合(ASEM5)

2004年10月7日から9日までベトナムのハノイにおいて開催された。アジア側よりは、閣僚レベルで参加したミャンマーと大統領選挙直後のインドネシアを除きASEAN+3(日中韓)の全首脳が、欧州側よりは、仏、独、欧州委員会委員長を含む11か国・機関の首脳(そ

の他は閣僚レベルの代理出席者)が出席した。日本からは小泉首相も来越し、ハノイ全域にわたり交通規制がひかれ、学校も3日間休校となった。

3 .ベトナムの文化に触れて~目からウロコの日々

(1) 交通事情

個人的には運転が好きな方であるが、こちらでは運転が禁止である。故にドライバーを雇って職場に移動する日々であった。なぜ運転が禁止か、と言えば危険である、という理由だ。ハノイの道路は、主にバイクで埋め尽くされ、最近では車も増えてきた。何が危険か、といえば、運転の仕方がなかなかスリル満点で、いきなり車の前にバイクが現れ、去っていくといったイメージだ。とにかくバイクが多く、交差点ではあらゆる方向からうまく交差してすり抜けながら運転していく様子を見て驚きつつも感動した。信号が少ないので、お互い絶妙な間で譲り合いながら、また、かわしながら交通が成り立っている点に、一種の合理性を見た。つまり、信号待ちで無駄な時間が少ないかもしれない、と考えるようになった。もちろん事故は多い方なので、改善していく方向であろう。タクシーは初乗り1.3キロで約11000ドンである。

(2) 食と言えば・・・ベトナム!

ベトナム人はほとんどの人が、毎日、朝食と昼食は外食をするそうだ。日本では考えられないが、焼き肉やお寿司など豪華な外食をしているわけではない。ベトナム料理の代表といっても過言ではないフォー、またはお粥、ブンチャー(焼き肉つけ麺)といった米や米からできている麺料理を好んで食べている。コンビンザンと呼ばれる大衆食堂にもよく行く。コンビンザンには色々なおかずが並べられていて、その中から自分の好きなおかず2~3品を選ぶ。座っていると黙っていてもご飯が出てくる。それも大盛りで。ベトナム人はお米が大好きなので

。女性もたくさんお米を食べる。これらの料理は、金額がとても安く、どれもおいしい。日本人にも合う味だ。いわゆる“早い・安い・うまい”の3拍子がそろっている。ベトナムへ行った時、慣れた頃に是非試すとよいだろう。ローカルなお店はきれいとは言えないが(床にゴミが散乱している=ゴミを床



に捨てる習慣がある)慣れてくると、趣が感じられてくる。そして何と言っても「ビアホイ(ビアガーデン)」は安くビールが飲めて多くの人々に人気である。一杯20円~30円くらいである。多くの外国人も必ずそこに行き、ベトナムの人々の雰囲気を感じ取ることができる場所である。その場所で職場の仲間と多く語らうことがあり、思い出の場所となった。ローカルな店以外にもたくさんの飲食店があり、やや値段は高くなるが、落ち着いて食事ができ、トイレも清潔である。色々な国の料理も楽しむことができるし、もちろん日本料理店もあります。インド、フランス、韓国、中華、イタリア料理等とてもおいしく、日本で食べるよりお手頃な価格だ。

市場は、日本のような朝市場とは違い、値段も表示されていないし、パックにも入っていない。ごろ



ごろと肉や野菜が並べられている。値段交渉も必要だ。市場のおばちゃんやお姉さんは、女性には多く値引きする傾向があるかもしれない。なんといっても、果物が豊富で、とてもおいしい。南国ならではの果物がたくさんあり、値段もとても安い。(マンゴー、パパイア、ドラゴンフルーツ、ライチ、マンゴスチンなど)

(3) 伝統、世界遺産

ベトナムにはいくつかの世界遺産がある。フエの建造物群、ホイアンの古い町並み、ミーソン聖域、ハロン湾、フォンニャ-ケバン国立公園などがあげられる。また、伝統的なものとして水上人形劇、民族衣装のアオザイ、様々な楽器を使う民族音楽などがある。



(4) ベトナムの光と影

ベトナム戦争の傷跡

オレンジ剤（枯れ葉剤）などの散布により、世代を越えた被害を受けたベトナムの人々。「アメリカ戦争」に参加した、と証言できる人々もまだ多い。現在の子供たちの中でもこの枯れ葉剤の影響による後遺症、異常発達など多く存在するとも言われるが、そのような子供たちのための施設が多く存在する。ハノイにも平和村と呼ばれる施設があり、交流学习を行っている。

ストリートチルドレン

ドイモイ政策は、経済を活性する一方、貧富の格差を増大させたとも言われる。一部の豊かな人と多くの貧しい人が存在する社会主義となり、その余波は子供達にいつてしまった。貧困から親が死んだり、また捨てられたりするケースも存在し、路上で生活したり、学校へ行けず仕事をする状態に陥る。一方、そのような子供達の人権を守るべく、たくさんの施設やボランティア団体が存在する。

環境汚染

湖の汚染、大気汚染、薬害、不衛生から環境破壊にいくものなど様々な課題を抱えている。戦後の日本と似たような状況になるのではと考える。

麻薬・エイズ

公園には時々、注射器が落ちていたりなど、少しずつ麻薬の害が蔓延している、とも聞く。それに関わり、エイズ患者も増えている。政府は看板など

で「死に結びつく」ことをよびかけ、予防PRを少しずつ行っている。

鳥インフルエンザ

派遣期間、常に鳥インフルエンザの患者が発生していた。時には鶏肉が市場から一斉に消えた期間もあり、ベトナム政府の徹底ぶりがうかがえた。鶏肉、卵などには注意せざるを得なかった。

4. 終わりに Hen gap lai! Viet nam (See you again)

人から学んだ3年間

職場から感じたこと

・朝の落ち葉掃き～釧路では体験してこなかった落ち葉掃きであるが、旧校舎では毎日のリズムであった。大きな木から毎日落ちてくる量にも驚いたが、なぜか新鮮な体験で記憶に染みついている。



・体育・水泳の授業～暑い国は運動不足の解消というテーマを持っているが「エアロビクス」など10分くらい継続して行う運動を何セットか行う。自分も体験してみたが、かなりハードである。ただ時にはいつもと違う動きと運動を行うことはよい刺激になる。また、北海道は水泳授業が少なく、泳げる子も限られているが、それは体育カリキュラムの課題だと考える。水泳運動から多くの学ぶべきことがあったと思う。

・コンピュータの活用～「コンピュータを生かす」という意味では、全員で情報を共有して仕事ができたとと思う。それは情報が整理されている、次年度を考えながら記録を残して累積していくことなどがしっかりしていた様に思う。学級通信、各分掌の文書、教材など、毎年財産が増えていくこと

はよいことである。

・日本全国から来た同僚たち～各地域で実践してきた教育方法や考え方を交流することは、切磋琢磨しながらいろいろな視点を持つよい機会となった。また、全員で動くことで学校が運営されているという雰囲気もあり、大変な面もあったが充実の毎日であった。小さな異文化交流であった。

・日本の援助～保護者の方々の職種を見ると、インフラ整備のプロジェクト、というものが目立った。日本は世界にたくさんの援助をしており、ベトナムもその一つ、というのを肌で感じた。

ベトナムの方々から

・家族、子どもを大切にする国民性～ベトナムの人々は子どもがとても好きである。バスでも赤ちゃんを抱いている母親は自然に「どうぞ」といって席を譲られる。子どもを連れた家族がいると、自然に寄ってきて「かわいいね」と話しかけてくる。そんな子どもを大切にする国民性は、学ぶべき点が多い。しつけも逆に厳しい。めりはりがはっきりとしている。そして先生は尊敬に値する存在である。

・ねばり強さ、たくましさ～学生がでこぼこのグラウンドで、裸足でサッカーに興じている。バイクには5人の家族が全員乗っている。また大きなガラスなども運んでいる。事故でも起きたら大事だ。高いビルの工事では綱一本を命綱として作業している。国立公園の中の高く険しい登る所を赤ちゃんを抱いてすいすい歩いていくお母さん。そしてアメリカとの戦争で決して「GIVE UP」しなかった。いったん団結したら力強く前進する底力が感じられた。そんな精神が息吹いている。

・大きな声ではつらつと～レストランでも市場でも、とてもよい声(大きな声)で叫ぶ。そして人を呼ぶ。音楽的に言うと腹式呼吸なのであろうか、歌を歌わせたらさぞ上手なことだろう。女性も男

性も「エム・オーイ!(ねえ、君)」と声が行き交う感じである。学校でも子ども達は手を挙げて発表する際にははっきりと自分の考えを述べていた。はっきりと表現し、おなかから声を出す力。ちなみにベトナム語は音楽的な言語であると、言われている。

・日本人と似た民～ベトナムの人々は手先が器用と言われる。いったん仕事を覚えると、まじめにしっかりとこなす。民芸品でも細かい作業のものなど多い。これから経済面や技術面、また様々な分野でベトナムの力が発揮されていく可能性も多いと思う。

日本を見つめて

・日本文化とは何か?～プライベートで合気道の稽古に通っていたが、多くのベトナム人が習いにきている姿を見て感心した。日本の武道、そこから日本の精神性などを学びたい、という若者から多くのことを感じた。私たち日本人は例えば「武士道」について外国の人々に説明できるであろうか?



・内なる国際交流～あらためて、住んでいる地域に目を向け様々な交流のチャンスがあるのでは、と実感する。例えば北海道は「アイヌ民族」が住む土地であり、アイヌの文化、言葉などに知らず知らず触れてきている。それらの哲学を私たちが知り、子ども達に伝えていくことは、多くの「学び」が得られると確信している。私たち教師は「大切なことを知らなければならない」し、それを子ども達に伝えていくチャンスがいつでもある、ということをおもうのである。